

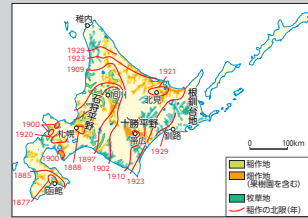
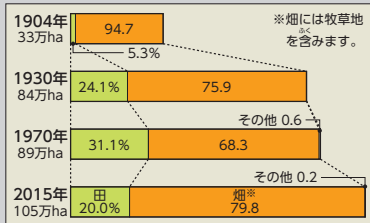
デジタル教科書指導案／地理的分野

1. 題材 p.276-277 厳しい自然環境を克服してきた稲作
2. 目標
 - (1) 北海道で米の生産が盛んになった経緯を、開拓の歴史を踏まえて理解できる。
 - (2) 北海道で行われている土地改良や品種改良の取り組みの必要性について、自然環境との関わりから考察できる。
3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・石狩平野は、屯田兵などによる開拓や、泥炭地の土地改良によって日本有数の米どころになったことを理解している。
思考・判断・表現	・泥炭地が広がっていたことや、味のよい米を開発する背景には、北海道の冷涼な気候が関わっていることを考察している。

4. 指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)																													
導入	1. 石狩平野の写真を題材にし、本時の課題をつかむ。	 p.276 1	○ 写真から、土地利用について話し合い、本時への導入を図る。 ◆ 北海道のほかの平野と比較して、水田が多いことに気付かせる。																													
	2. 全国の米の生産における北海道の割合を確認し、寒冷地でありながら米の生産量が多い理由を予想させ、学習課題への見通しを持つ。	石狩平野では、どのような土地利用が見られるのだろうか。 <table border="1"><tr><td>米</td><td>778万t</td><td>—2018年—</td></tr><tr><td>新潟</td><td>8.1%</td><td></td></tr><tr><td>北海道</td><td>6.6%</td><td></td></tr><tr><td>秋田</td><td>6.3%</td><td></td></tr><tr><td>山形</td><td>4.8%</td><td></td></tr><tr><td>宮城</td><td>4.8%</td><td></td></tr><tr><td>茨城</td><td>4.7%</td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td>60.1%</td><td></td></tr></table> 地図帳 p.171 ② <table border="1"><tr><td>米の生産が盛んな地域</td><td>なぜだろうか</td><td>北海道</td></tr><tr><td>(例) 温帯や熱帯など、温暖で降水量が多い。</td><td></td><td>(例) 冬は雪が降り、夏が短い。</td></tr></table> 寒冷な気候の北海道で、米の生産量が多いのはなぜなのだろうか。	米	778万t	—2018年—	新潟	8.1%		北海道	6.6%		秋田	6.3%		山形	4.8%		宮城	4.8%		茨城	4.7%		その他	60.1%		米の生産が盛んな地域	なぜだろうか	北海道	(例) 温帯や熱帯など、温暖で降水量が多い。		(例) 冬は雪が降り、夏が短い。
米	778万t	—2018年—																														
新潟	8.1%																															
北海道	6.6%																															
秋田	6.3%																															
山形	4.8%																															
宮城	4.8%																															
茨城	4.7%																															
その他	60.1%																															
米の生産が盛んな地域	なぜだろうか	北海道																														
(例) 温帯や熱帯など、温暖で降水量が多い。		(例) 冬は雪が降り、夏が短い。																														
	学習課題：温暖な気候の下で行われる米作りが、寒冷な北海道で盛んに行われているのはなぜだろうか。																															
展開	3. 寒冷な北海道で米の生産が盛んな理由を考察する。	<table border="1"><thead><tr><th>主な取り組み</th><th>内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>① 屯田兵による開拓と農地の拡大</td><td>(例) 屯田兵など全国各地から移住してきた人が原野や森林を切りひらいて農地を造った。</td></tr><tr><td>② (例) 泥炭地の土地改良</td><td>(例) 泥炭地の水はけをよくするため排水路を掘り、客土を行ったほか、蛇行する石狩川をまっすぐにした。</td></tr><tr><td>③ (例) 品種改良</td><td>(例) 寒さに強く、短い期間で生育する品種を開発したほか、近年は「銘柄米」の研究や栽培が盛んになっている。</td></tr></tbody></table> 北海道の稲作が盛んになった理由を、北海道の人々の取り組みから考えてみよう。  p.276 2	主な取り組み	内容	① 屯田兵による開拓と農地の拡大	(例) 屯田兵など全国各地から移住してきた人が原野や森林を切りひらいて農地を造った。	② (例) 泥炭地の土地改良	(例) 泥炭地の水はけをよくするため排水路を掘り、客土を行ったほか、蛇行する石狩川をまっすぐにした。	③ (例) 品種改良	(例) 寒さに強く、短い期間で生育する品種を開発したほか、近年は「銘柄米」の研究や栽培が盛んになっている。	○ 学習プリントを活用し、北海道で米を栽培するために行われてきた取り組みについて調べ、まとめさせる。 ◆ 北海道の米の生産が現在のようになり盛んになった経緯を説明させる。																					
	主な取り組み	内容																														
① 屯田兵による開拓と農地の拡大	(例) 屯田兵など全国各地から移住してきた人が原野や森林を切りひらいて農地を造った。																															
② (例) 泥炭地の土地改良	(例) 泥炭地の水はけをよくするため排水路を掘り、客土を行ったほか、蛇行する石狩川をまっすぐにした。																															
③ (例) 品種改良	(例) 寒さに強く、短い期間で生育する品種を開発したほか、近年は「銘柄米」の研究や栽培が盛んになっている。																															
開	(1) 石狩川の改良工事	石狩川をまっすぐにしたのはなぜだろうか。	○ 資料を活用し、石狩川の改良工事の概要を理解させる。 ◆ 洪水の防止や水はけをよくするために石狩川をまっすぐにする工事を行ったことを理解させる。																													

展 開	(2) 泥炭地の開発 (3) 稲作の北限の拡大 (4) 品種改良 4. 北海道の稲作の現状や課題について理解する。 (1) 水田面積の減少と減反 (2) 畑の増加	 p.276 3  「石狩平野の土地改良」 泥炭地とはどのような土地だろうか。 また、どのようにして改良してきたのだろうか。  p.277 4  p.277 5 米の北限が年代を追うごとに北上したのはなぜだろうか。 写真の米のうち、北海道の銘柄米はどれだろうか。 また、ほかの北海道の銘柄米を挙げてみよう。  p.277 8 資料から読み取れることを挙げてみよう。また、そのような変化が起きたのはなぜだろうか。	◆ 石狩平野に広がっている泥炭地の特徴を確認させ、排水路を掘ったり、客土を行ったりすることで土地改良を行い、農地の拡大が図られたことを理解させる。 ○ 北海道の稲作の北限が、徐々に北上した理由を考えさせる。 ◆ 寒さに強く、短い生育期間で実る品種の改良や栽培方法の工夫などによって、米の北限を北上させてきたことに気付かせる。 ○ 写真以外の北海道の銘柄米を挙げさせる。 ○ 稲作を巡る状況の変化を読み取らせる。 ◆ 米の消費量が減少してきたことで、1970年代以降減反政策が行われたことなどから、水田面積が減少してきたことに気付かせる。 ◆ 地図帳の絵記号を確認させ、石狩平野でも大豆が栽培されていることを読み取らせる。
整 理	5. 本時のまとめをする。 6. 学習課題への振り返りの活動を行う。	現在のように、北海道で米の生産が盛んになった経緯を、説明しよう。 「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。	◆ 現在のように、北海道で米の生産が盛んになった経緯を、土地改良や品種改良などに着目して説明できたか確認する。 ○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。